父親の子育てと家事に対する意識調査研究

石　川　洋　子

Ⅰ．はじめに

女性の就労の増加や少子化，生活や余暇に対する意識の変化などにより，父親の子育て意識も変わりつつあると言われる。また，最近の出生率の低下（平成２年・合計特殊出生率－1.54)[1]の原因として，女性の晩婚化や高学歴化，経済的要因等も論じられている。

女性の就労や高学歴化が社会のすすむ方向であるとすれば，女性の就労のしやすさの要因は，子どもの出生率低下の歯止めの一つになると思われる。そこで，この女性の就労のしやすさのバックボーンの一つである，父親の子育てや家庭生活への意識の一端を知るべく，本調査研究を企図した。

Ⅱ．調査対象ならびに調査時期

調査対象は，東京と神奈川に住む父親と女子学生であり，その内訳は次の通りである。

７歳未満の子供をもつ父親……103名
大学生の子供をもつ父親……144名
女子短大生……166名

調査時期は，1991年１月～７月。調査方法は，手渡しによる質問紙調査法。回収率はそれぞれ，42.0%，58.8%，87.4%であった。

Ⅲ．結果ならびに考察

父親の年齢構成と職業は，それぞれ次表の通りである。

表１　父親の年齢

	７歳未満の子の父		学生の父	
	N	%	N	%
20以上30未満	22	21.4	0	
30以上40未満	53	51.5	0	
40以上50未満	25	24.3	58	40.3
50以上60未満	0		79	54.9
60以上70未満	0		2	1.4
不　明	3	2.9	5	3.5
合　計	103	100.0	144	100.0

表２　父親の職業

	７歳未満の子の父		学生の父	
	N	%	N	%
会社員・公務員	81	78.6	111	77.1
自営業	15	14.6	27	18.8
自由業	3	2.9	1	0.7
その他	3	2.9	4	2.8
不　明	1	1.0	1	0.7
合　計	103	100.0	144	100.0

Ａ．子育て（育児）に対する父親の意識

①　７歳未満の子供をもつ父親の子育てへの意識

現在子育て（育児）の真最中である，７歳未満の子供のいる父親たちの子育てへの意識を，主に父親の年齢により分析をしてみた。

表３の通り，40代の父親よりも20代，30代の若い父親の方が，子育てに十分参加しており，逆に40代の父親の28%は，「あまり・全く」参加していないと答えている。

実際にどんな子育てをしているのかを21項目にわたり尋ねてみた結果が表4である（表中は，主な11項目）。これは，「いつも・ときどき」しているものを答えてもらったものであるが，全体的には，「一しょに遊ぶ」「沐浴（入浴）させる」などが父親の子育ての内容になっている。やはり20代，30代の若い父親たちと40代の父親には差があり，特に，「あやす」「ミルクを作る」項目には有意差が見られた。これは若い父親の方が子供の年齢が低く，それだけ育児の項目を強く意識した結果かもしれないが，全体的な傾向として，若い父親の方が子育てをしているということは言えるようである。

では，その子育ては大変と思うかどうかを尋ねたものが表5である。有意差までは出ていないが，実際に子育てをしている20代，30代の父親たちが，子育ては「思ったよりも大変」と答えている。しかし，表6のように，子育ては大変だが，「とても楽しいもの」だとも答えているのである。

我々が現在，生活重視型の方向を向きつつあるのだとすれば，この子育ての楽しさに気づいた若い父親たちがこれを示しているのかも知れない。しかし，小さい年齢の子供のいる父親たちも，40歳代にもなれば仕事の責任も，忙しさも増してくるであろう。また，第一子の時には育児の珍しさもあったものが，第二子，第三子にもなるとそれがなくなることもあるようである。社会的な価値意識の転換も含めて，生活重視の生き方が浸透するには，まだもう少し時間がかかるように思われる。

表3　子育てへの参加（7歳未満の子の父）　%(N)

	十分参加	まあ参加	どちらともいえない	あまり参加せず	全く参加せず	N
20～30歳	18.2(4)	50.0(11)	18.2(4)	9.1(2)	4.5(1)	22
30～40歳	18.9(10)	45.3(24)	18.9(10)	15.1(8)	1.9(1)	53
40～50歳	8.0(2)	56.0(14)	8.0(2)	24.0(6)	4.0(1)	25

表4　子育ての内容の年齢による差異（7歳未満の子の父）　%(N)

順位		20～30歳	30～40歳	40～50歳	
1	家の中で一しょに遊ぶ	86.4(19)	86.5(45)	75.0(18)	
2	沐浴	90.9(20)	75.0(39)	70.8(17)	
3	外で遊ばせる	72.7(16)	69.2(36)	66.7(16)	
4	あやす	77.3(17)	65.4(34)	41.7(10)	※
5	買い物へ連れていく	68.2(15)	65.4(34)	45.8(11)	
7	ミルクを飲ませる	72.7(16)	51.9(27)	41.7(10)	
8	着替え	63.6(14)	53.8(28)	41.7(10)	
8	寝かせる	68.2(15)	53.8(28)	37.5(9)	
10	食事を食べさせる	68.2(15)	50.0(26)	41.7(10)	
11	病院へ連れていく	50.0(11)	53.8(28)	29.2(7)	
12	ミルクを作る	59.1(13)	50.0(26)	20.8(5)	※

注1）「いつも」「ときどき」している者の割合
※…P＜.05

② 大学生の子供をもつ父親の子育てへの意識

次に，子供が大学生になり，子育て（育児）の大変な時期は終った年配の父親たちに，子供が小さかった頃の子育てをふり返ってもらった。

子育てにどれ位参加していたかの質問では，前述の7歳未満の子供のいる父親との間に，ほとんど差は見い出されなかった。

実際に何をしていたかを「いつも・ときどき」していた項目について具体的に尋ねてみた結果を，7歳未満の子どもをもつ父親と比較してグラフにしたのが図1である。父親が行なう子

表5　子育ては大変か（7歳未満の子の父）

%(N)

	思ったより大変	少し大変	大変ではない	N
20～30歳	59.1(13)	40.9(9)	(0)	22
30～40歳	46.2(24)	34.6(18)	19.2(10)	51
40～50歳	45.8(11)	25.0(6)	29.2(7)	23

表6　子育ては楽しいか（7歳未満の子の父）

%(N)

	とても楽しい	まあ楽しい	どちらともいえない	あまり楽しくない	N
20～30歳	45.5(10)	50.0(11)	(0)	44.5(1)	22
30～40歳	41.5(22)	37.7(20)	17.0(9)	33.8(2)	53
40～50歳	20.8(5)	58.3(14)	20.8(5)	(0)	24

育て（育児）の内容は，今も昔もその傾向は似ているもののようであるが，学生の子供をもつ父親の方が少しずつその割合を下げているのがわかる。中でも，「おむつの交換」「着替え」「ミルクを作る」「手や歯を洗わせる」「トイレの世話」といった，子育ての「世話」に関するものは，現代の若い父親たちの方がよくこなしているのがわかる。

また，子育てに関する項目の，上位5項目の順位にはほとんど変動はないのであるが，学生の子供をもつ父親の時代には，「外で遊ばせる」のが多かったのに比して，現在小さい子供のいる父親の方は，「家の中で一しょに遊ぶ」のが，第一位となっている。父親との遊び方にも変化が起きつつあるのであろうか。

表7の「子育ては大変だったか」の項目を，7歳未満の子供のいる父親と比較をしてみると，1%水準で大学生の子供のいる父親の方が「大変ではなかった」と答えている。過去に経験した育児の大変さを忘れてしまっているのかもしれないことを差し引いても，やはり，大学生の父親たちはあまり育児にはタッ

図1　父親の子育て

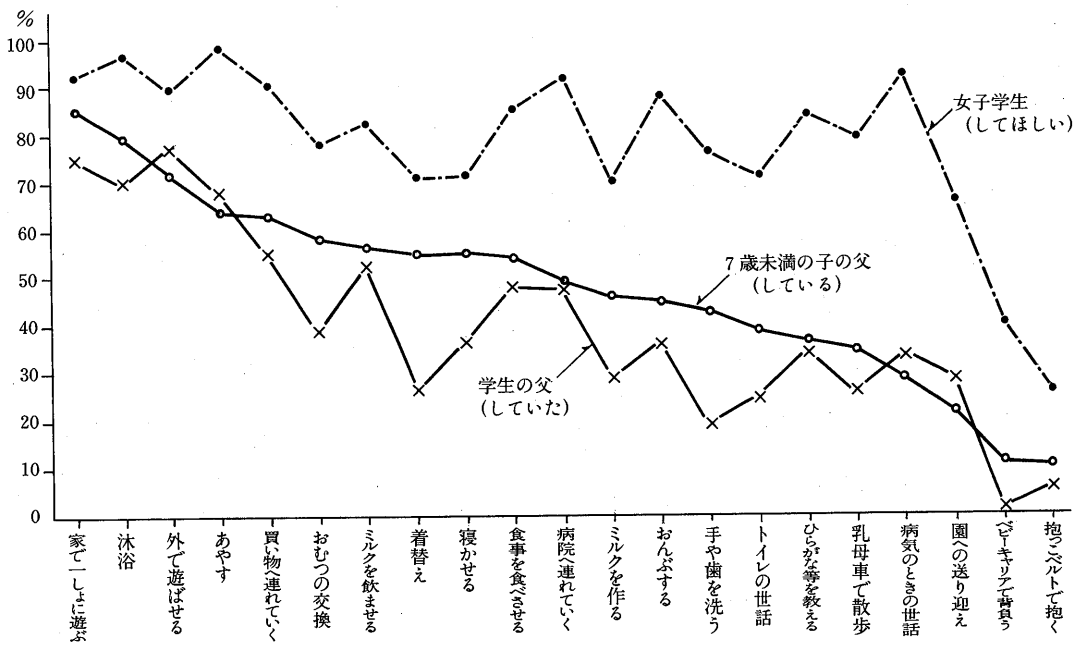


表7　子育ては大変だったか（大変か）%(N)

	思ったより大変	少し大変	大変ではない	N	
7歳未満の子の父	50.5(51)	32.7(33)	16.8(17)	101	※※
学生の父	23.1(33)	44.8(64)	32.2(46)	143	

$X^2=20.49$　※※…P＜.01

チしていなかったようである。

しかし，この大学生の父親たちも，現代の父親の子育て参加は以前よりも多いと見ており（表8），今後の子育ても，「父親もできるだけ助ける－49.3%」「父親も母親も同等に－35.7%」と，合わせて85%の者が子育てのすすむ動向を父親参加型ととらえていた。

B．家事に対する父親の意識

子育てに関する父親の意識には，その年齢（年代）により違いが見られたが，では，家事についてはどうであろうか。

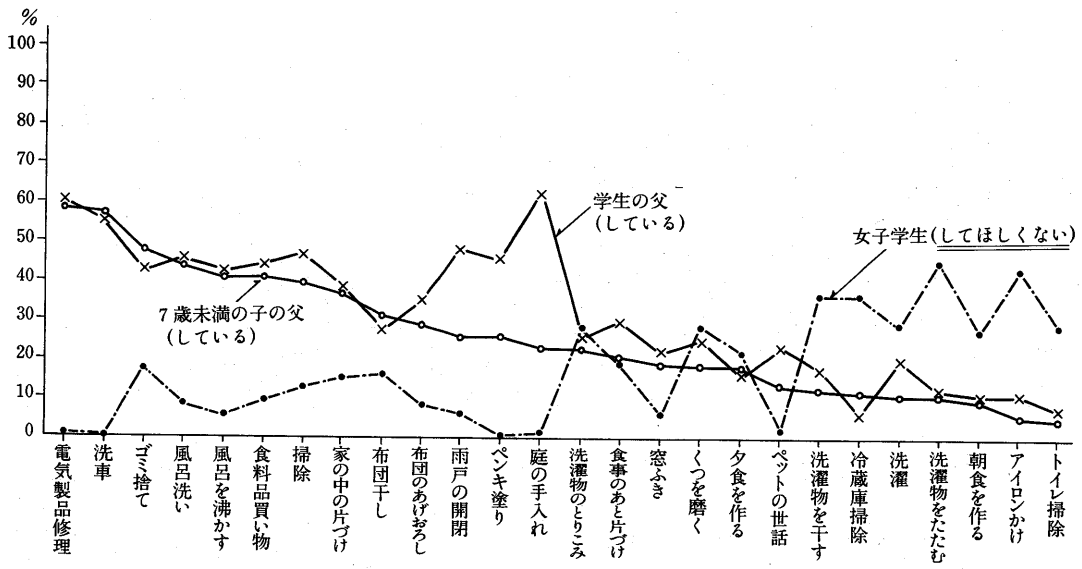
表8　今の父親の子育て参加（学生の父）

以前より参加	% (N)
以前より参加	51.8 (72)
少しは参加	24.5 (34)
同じ位	15.8 (22)
以前の方が参加	7.9 (11)
合　計	100.0(139)

表9　今後の子育ては（学生の父）

	% (N)
母親中心	12.9 (18)
父親もできるだけ助ける	49.3 (69)
父親も母親も同等に	35.7 (50)
関心なし	2.1 (3)
合　計	100.0(144)

図2　父親の家事



家事に関する26項目について，子育ての項目と同様，「いつも・ときどき」しているものを掲げてもらい，7歳未満の子供のいる父親と，大学生をもつ父親との比較をグラフに示したものが，図2である。

図を見てわかるとおり，今も昔の父親も，その家事の内容は似た傾向のものであり，「電気製品の修理」「洗車」「ゴミ捨て」など従来からなされていたものが高い割合になっている。また，家事をする者の割合も，子育てをしている者の割合より下る傾向にある。

「雨戸の開閉」「ペンキ塗り」「庭の手入れ」などの項目に，父親の年代による差も見られたが，これは住環境等の変化からくるものであろう。子育ての面では若い父親にその意識の変化のきざしが見られるが，家事に関する限りは，変化はあまりないもののようであった。

C．父親(夫)の子育てと家事に対する女子学生の意識

父親たちの子育てと家事に対する意識や行動を年代別に分析してみたが，その父親たちの意識の裏側には，母親（女性）の意識も関連しているように思われる。そこで，近い将来母親になるであろう女子学生の，子育てと家事に関して，父親（夫）にどのような将来像や役割期待を持っているのかを父親に対して用いたものと同じ調査項目を使って調査してみた。

①子育てに対する父親の役割について

子育てに関する21項目について，「ぜひ・できればしてほしい—どちらともいえない—あまり・ぜったいしてほしくない」の5段階評定をしてもらった結果，ほとんどの項目で，65%から98%の高い割合で「してほしい」と答えていた（あやす—97.6%，おんぶ—87.4%，園への送り迎え—65.1%)。この「してほしい」項目結果をグラフにしたものが，前出の図1である。父親たちが「している（していた」）割合が右下りのグラフを描くのに比して，女子学生はどの項目も同じように高くなっている。子育てはあくまでも父親(夫)も一しょにしてほしいと望んでいるようである。

表10　父親(夫)の家事に対する意識の因子分析
（女子学生）

		第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	h^2
22	洗濯	.845	−.010	.875
20	洗濯物を干す	.843	.019	.875
13	洗濯物のとりこみ	.838	−.011	.813
22	洗濯物をたたむ	.819	.050	.813
25	アイロンかけ	.794	−.077	.686
26	トイレ掃除	.754	−.232	.679
8	家の中の片づけ	.696	−.240	.666
16	くつを磨く	.695	−.103	.674
21	冷蔵庫掃除	.693	−.133	.679
7	掃除	.684	−.174	.687
15	食事のあと片づけ	.668	−.248	.686
9	布団干し	.653	−.311	.667
24	朝食を作る	.645	−.212	.768
4	風呂洗い	.629	−.303	.702
18	夕食を作る	.627	−.149	.768
5	風呂をわかす	.626	−.290	.702
3	ゴミ捨て	.611	−.255	.630
10	布団のあげおろし	.595	−.428	.667
5	食料品買い物	.551	−.276	.546
16	窓ふき	.501	−.434	.601
11	ペンキ塗り	−.052	−.786	.695
1	電気製品修理	−.073	−.703	.695
2	洗車	.070	−.671	.602
13	庭の手入れ	.300	−.648	.543
19	ペットの世話	.198	−.573	.538
11	雨戸の開閉	.351	−.483	.569
	（固有値）	11.01	2.55	
	（寄与率）	42.4	9.8	52.2

②家事に対する夫の役割について

家事に関する26項目についても，「ぜひ・できればしてほしい—どちらともいえない—

あまり・絶対してほしくない」の5段階評定をしてもらった。

「ぜひ・できればしてほしい」家事の項目では項目間の開きが大きく，99%から18%にわたっている（洗車—98.8%，食事のあと片づけ—49.4%，洗濯—41.1%，アイロンかけ—17.7%）。

育児の項目における「してほしい」割合に比して，家事の項目では項目間に開きが大きかったので，ここでは，「あまり・絶対してほしくない」と答えている者の割合をグラフで見てみた（前出の図2）。洗濯物を干す（35.2%），洗濯物をたたむ（44.2%），アイロンかけ（42.6%）など，10項目で20%から44%の者が父親（夫）がすることを拒否している結果である。

この女子学生たちの意識には個人差が大きいようであったが，父親（将来の夫）の家事に対する意識や行動にも影響を及ぼすものと思われたため，本26項目を因子分析をしてみた結果が表10である。固有値1以上の2因子を抽出し，バリマックス回転をさせた。

第1因子に高い負荷量を示す項目は，洗濯（.845），アイロンかけ(.794)，掃除(.684)，夕食を作る（.627）などであり，多くの項目が含まれ「家事万能型因子」とでも呼べるものである。

第II因子には，ペンキ塗り（−.786），電気製品の修理（−.703），洗車（−.671），庭の手入れ（−.648）など，従来父親の仕事とされているような家事の項目であり，「従来型家事遂行因子」とでも呼べるものであった。

女子学生たちの中には，父親（夫）の家事は「従来どおりのオーソドックスなものだけでいい」という意識と，「何でもしてほしい」という意識があるようであった。個人差が大きいもののようであったので，個人の因子得点を算出し，属性分析も試みたのであるが，明確な結果は出ていない。これらの意識の差は，父親や母親のモデルのあり方や育て方のみからくるものではなく，もっと個人的な経験や教育によるものかも知れない。

「こういう家事はしてほしくない，してもらってはいけない」といった女性の側の意識はごく個人的な性格のものかも知れないが，また時代と共に変っていくとも言えるであろう。価値感の形成には，やはり広い意味での教育や環境が重要のように思われる。

Ⅳ．まとめ

父親の育児や家事に対する意識と今後の方向性を探るために，7歳未満の子供をもつ父親（103名）と，大学生の子供をもつ父親（144名），女子短大生（166名）を対象に，質問紙調査を実施した。

7歳未満の子供のいる父親の子育てへの意識では，父親の年代により違いが見られ，20代，30代の若い父親の方が子育てをしている結果であった。若い父親は，子育ては思ったよりも大変と答えてはいるが，また楽しいものとも見ていた。

大学生の子供のいる父親の子育ての参加は，7歳未満の子供のいる父親たちよりも若干低くなっていた。しかし今後の子育てのすすむ方向は，父親参加型ととらえていた。

家事に対する父親の意識や行動には，年齢等による差異はあまり見られず，子育てに比して，年代等による意識の変化はほとんどないようであった。

女子学生は，父親（将来の夫）には高い割合で育児をしてほしいと望んでいた。しかし，家事については項目により意識が異っており，因子分析の結果，第I因子「家事万能型因子」，第II因子「従来型家事遂行因子」とでも呼ぶべき2因子が抽出された。個人の因子得点の属性分析をしたが，父親や母親のモデルのあり方や育て方等による差異は見られなかった。

［謝辞］ 本調査を行うにあたりご協力いただいた方々，並びに本短期大学学生の皆様に，厚く御礼を申し上げます。

〈引用文献〉

＊1） 人口動態統計，厚生省大臣官房統計情報部，1991

〈参考文献〉

1）「日本的父性の発見」
安渓真一，矢吹省二著，有斐閣

2） 日本子ども資料年鑑
日本総合愛育研究所編，1991，中央出版

3）「父親の深層」
馬場謙一，福島章，他編，1984，有斐閣